

テーワーのアクシデント ラブ

マサリンはきれいで十億万のビジネスマンの嗣子だ。ホテルでの仕事を見学しに来た。トライロンという彼氏との愛を成功するように、神に祈った。同時に、姉3人も恋人にあうように祈った。そうではなかったら、彼女はトライロンと結婚する方法は全くない。なぜかというと、お父さん（トッサナイ）さんはすえっ子のマサリンにお姉さんたちより絶対に早く結婚させないと確認した。

トキヤ(愛の神) はお参りの人々に愛に成功できるように義務があつて、最後の責務をしなければいけない。つまり、天の神に昇進できるために、30万組のカップルに愛に成功させることだ。今、残りは5組だけだ。カマダ（天の神の秘書、カップルのリストを管理する）トキヤにマサリンのお姉さんとマサリンがソウルメイトにあうようにしなければならないと言った。つまり、これは残りの4組のカップルだ。この責務を達成させるためには3ヶ月の時間がある。万一、失敗するならトキヤは一生人間の世界につながることになっている。それで、トキヤは一生懸命この責務をしている。なぜなら、彼は人間の利欲と利己的なことに厭きた。それで、限界なく大混乱の人間の世界と結びつけたくないだ。

カマダはトキヤのこの責務を達成させる時間が少ししか残っていないからと思うと、トキヤのアシスタントとしてテッサイ（露出する神）とユイ（自信がある天女）を派遣した。トキヤのミッションはいろいろなタブーがあるようだ。例、いい人を困らせてはいけなかつたり、自分の本当の身分を公開してはいけなかつたり、人間の目の前で神通力を見せてはいけなかつたり、人間を相愛させる強制してはいけなかつたりしている。

神に祈った後、マサリンはホテルへ帰る途中で事故に遭った。マサリンはほぼ車にぶつけられ、幸い、トキヤはマサリンを助けられた。二人は倒れて、トキヤはマサリンをキスしてしまった。唇と唇が触れ合つたとたん、トキヤはある女の人とキスをしている画像が見えたが、あの女の人の顔を見えなかつた。トキヤははっきり言えないが、このようなロマンチックなタッチに慣れた。一方、マサリンは意識が回復してからトキヤの顔を殴って、百人ぐらいの前でキスをするのを叱った。恥をかい

て早くホテルへ帰った。それから、タイに戻った。トキヤは責務を達成させるために、テッサイとユイと一緒にマサリンを追いかけてタイに来た。マサリンのホテルで現れた。仕事の交流のため、マサリンが共同企業体として連絡した日本でのホテルから派遣されたと通知したが、マサリンはその通りに信じなかつた。

トキヤが化けて、ホテル運営についての秘密を探り出すことだと思う。マサリンはずっとトキヤと大敵になっている。

マサリンの大きい屋敷（バーントラガーンサック）には、トッサナイは家の頭で、マユレートはきれいな妻で、このカップルはきれいな女の子が4人いる。マユリーは長女でケチなひとだ。家族の財産を騙すことを恐れるから、どの男の人でも信用しない。たくさんの人から口説かれても男の人に気にしない。マユリンは淑女で大人しくて、男の人から近付いてはいけない。まだ、若くても、昔気質な人なので男の人と性交をしたことがない。マトウロットは積極的で、活発な人だ。結婚式を挙げるほどキリーという若いビジネスマンと交際したことがある。しかし、結婚の日、ある妊娠中の女のは式に入って来て、キリーの奥さんという事実をみんなに知らせて、自分の主人を戻せるように要求した。この事件のせいで、マトウロットは男の人をいやがっている。

マサリンは末っ子で姉にみんな可愛がられた。姉妹はみんな仲良くしている。その他、チェムチャン（親切なメード）はみんな世話をしている。トッサナイさんはウィナイ（厳しい秘書）から仕事も個人の用事も世話になっている。マサリンと3人の姉はトラガーンサック会社を運営している。この会社は色々な事業をやっているが、大した事業はホテルだ。トッサポン（トッサナイの弟）はディレクターで、ワイヤウットはトッサポンの右腕だ。

会社の運営チームは家族のメンバーなのでトラガーンサック会社の事業が広がっている。マユリンは経理マネジャーで、ケート(色男)は右腕だ。マユリンさんは人事マネジャーで、シュンショム（おしゃべりで好奇心が強い）は助手だ。マトウロットは営業部を管理してチャート(丁寧な人)は右腕だ。マサリンは宣伝部のマネジャーだ。ルークノックはホテルのメードのリーダーだ。ケースダー（トッサポンのセクシーな娘）

は初めてトキヤに会った時、とても好きなので、ずっと彼を戯れて、せびっている。マサリンはトキヤが貴族の女人をほしがると思って嫌いだ。マサリンとケースダーは子供の時からずっと気が合わない。なぜなら、ケースダーの色々な面と比べるとずっと上手だ。ケースダーは羨ましくてマサリンに会いたくない。二人は会う度に、よくけんかをしている。

マサリンの家族と親しくなってから、トキヤはマサリンの姉がみんな独身だと分かった。マユレートは斥候で絶え間なくトラガーンサック族のいいお婿さんを探している。しかし、男の人がみんな純粋な心で入って来るのではなく、みんなトラガーンサック族のお婿さんになりたい理由はこの家族の財産がほしいからだ。この家族の3人の娘は前より男の人にもっと嫌になる。それ以外、トッサポンがずっと自分のお父さんの代わりに、社長に任命されたトッサナイを羨ましがることについてトキヤも知っている。トッサポンはできればぜひトッサナイをなくす。

トキヤはトッサナイにホテル運営のいいアイディアを勧めた。トキヤの運営計画のおかげでホテルの売上を上げて目標を達成できた。これはトッサポンとワイヤウイットがとても不満だ。会社は進歩すれば進歩するほどトッサナイのパワーが広くなるので、トッサポンは権力を握ることも難しくなる。トキヤは大切な仕事を手伝って会社の色々な問題を解決できたから、マサリンは徐々にトキヤを信用できる。マサリンとトライロンの恋愛から判断すれば、トキヤはトライロンがマサリンのソウルメートだと信じている。同時に、彼は衣冠を着ている自分が同じ女人と結婚する夢の絵が定期的に見えるが、前と同じように女人の顔が見えなかつた。

トキヤは神通力を使ってマユリー、マユリン、マトウロットに自分のソウルメートに会うように状況を開始した。彼はマユリーをインスパイアして会社の建て増しが必要だと思わせてから、マユリーに会うようにコントラクターのソムサックと連絡をした。ソムサックは初めてマユリーに会った時、彼女の大人のようなきれいに対して呆然とした。マユリーのそばにいるのがいいから、毎日建築の管理をしに来る。それに、いつもタンテーク、クロックというタイのお菓子を買ってあげる。同時に、マユリーはソムサックのことを感心した。なぜかというと、彼は勤勉で、節約の人だ。マトウロットはホテルの大きなロットの品物を発注

するために、アニルット（ハンサムで大きなデパートのオーナー）を連絡しなければならない。しかし、トキヤはマユリンにアニルットを連絡させると示しあわせた。アニルットは浮気で彼女を口説いた。マユリンはアニルットを信じ切らないで、気をつけなければならない。一方、アニルットはこの時代にはマユリンのような大人しくて保守的な人が残っていることを驚いた。それに、マユリンがいつも彼に気をつけるのを乐しがっている。結局、アニルットは恋に落ちて、仕事で出来るだけマユリンのそばにいて、マユリンもわくわくしている。

トキヤはマトウロットにナッタポンと果物の缶詰について合併せるようにインスピアイアする。ナッタポンは自営業で事業を拡大したいから、トラガーンサック社と連絡をする。しかし、マトウロットとナッタポンの関係があまりスマーズではないのは初めて会った日に何か合わないことがあるからだ。お互いにずっと当てこしている。マトウロットはボーイ君（ナッタポンの息子）に目がない。ボーイ君はかわいい子で大人の教えたことに従う。マトウロットはよくボーイ君を連れて旅行をしに行く。これらの事件はすべてトキヤの作成したことだ。すべてのことがスマーズになるように、彼は変身して助ける。マサリンとトライロンとの愛を成功にするために、トキヤはよくマサリンといっしょにいる。結局、トキヤは恋に落ちてしまった。

最初、本人は人間を愛するのを信じなかつたが、マサリンを近づければ近づけるほど恩愛が多くなる。同時に、マサリンは知らず知らずのうちにトキヤに気になる。突然、トキヤは夢に結婚式で現れる女人の顔が見えた。その女人の人はマサリンだ。ですから、トキヤは極めてマサリンを愛している。カマダはトキヤにお互いに前生のソウルメートだと言つた。現世にはお互に關係がある理由は前生からの業因だ。

前生にはトキヤは王宮の軍人で、マサリンは庶民だった。お互に愛し合っていた。マサリンはトキヤを大逆の貴族と戦うことに対して応援したが、両方は大逆に殺されて、お互いを抱擁して死んだ。神と人間を愛し合うことは無理だから、カマダはトキヤにマサリンを思い切ると注意をした。トキヤはマサリンに対する気持ちを抑える。マサリンからできるだけ遠くいるようにする。それなのに、お互に前より近づくことになっている。二人は知らず知らずのうちに自分の気持ちを露出してし

またた。ケートスターはずっとトキヤを口説くし、マサリンはそう見えたなら不満になる。トライロンはマサリンの変化を気がついて、マサリンとトキヤを妨げる。

ブアケオ（マサリンのホテルの受付）がトライロンの愛人になるのはトキヤは知っている。ブアケオはトライロンから強姦されこのことをだれにも言わないように脅された。ブアケオはトライロンの大人の玩具のように傷ついた。トキヤはトライロンに気をつけるとマサリンに注意をした。しかし、マサリンはトキヤがトライロンを塗り付けると思ったから、お互いにけんかをした。トッサポンはワイヤウイットと協力してトッサナイの会社のお金を使い込んで、隠して外の人の名前で新しい会社を立ち上げた。事業はトラガーンサックの事業とまったく同じです。トラガーンサックのお客様を奪って、トラガーンサックの事業が徐々に悪くなつた。トライロンはついこのことを知っているので、トッサポンはワイヤウイットを派遣し、同じグループになるようにトライロンを持ち掛けた。トライロンはすぐその提案を受けた。なぜなら、彼の会社はまもなく倒産する。それから、トライロンはトッサナイの意を迎えるために、事故からマサリンの命を助けるという状況を作った。トッサナイはトライロンの殊勲が見えて、マサリンがトライロンと結婚できるように認める。マサリンはトキヤが好きになつたので悩んでいる。マサリンがトライロンと婚約する日、ブアケオは婚約式を中止させるために、婚約式に参加した。ブアケオはマサリンがトライロンに騙されないようにマサリンに事実を言う。しかし、トライロンは気がついて、ブアケオを閉じ込めた。トキヤはこのことが分かった時点でブアケオを助けた。

マユリーは気がつかないうちにソムサックと親しんでいる。マユリーの友達がこのことを知つてからみんな反対する。特に、両方の階級の差が大きい。マユリーは混乱してソムサックから疎外するが、ソムサックを哀れむ。ソムサックは自分の立場をよく理解していく絶対マユリーのような貴族に合わない。二人は疎遠になった。一方、マユリンは少しずつアニルットを憧れるが、結局、アニルットが浮気をやめられない彼との関係を断つた。ずっといっしょに仕事をして、マトウロットとナッタポンはお互いに気になる。初めはマトウロットはナッタポンを愛する勇気がないのは再び絶望をするわけだ。ナッタポンは彼女に真心を見せて

から、マトウロットはナッタポンと付き合うことにした。やがて、ナッタポンの元奥さんは現れて、妻の権利を戻したいから、マトウロットはナッタポンと付き合うことを中止した。

テッサイ（天の耳を持っている神）はトキヤと一緒にトッサポンの会社のお金を着服するのを探索した。トキヤはトッサポンの悪をみなに知らせた。トライロンがこのことを裏にあるのを知っているブアケオに彼を露呈した。ブアケオは皆に自分がトライロンの元奥さんことを曝け出した。マサリンはとても怒って、すぐトライロンとの関係を截ち切った。兄弟なので、トッサナイはトッサポンを許せるが、トッサポンにトラガーンサックから離脱させた。テッサイとユイはカマダに天に戻るよう呼ばれるが、テッサイとユイは突然トキヤと截ち切って、行方不明になった。トライロンはトキヤが足を引っ張るのが不満なので、ガンマンを雇ってトキヤを殺した。マサリンはそのイベントにもいるから、ガンマンはマサリンを攻めた。マサリンが無意識の前に、トキヤは神通力を使って、ガンマンを攻めた。マサリンは初めから終わりまで見た。それから、トッサポンとワイヤウイットとトライロンとケースダーはマユリー、マユリン、マトウロットとマサリンを逮捕し、身代金を要求する。トキヤとアニルットとナッタポンとソムサックは急いで、助けに行く。アニルットとナッタポンとソムサックはマユリー、マユリン、マトウロットを助けられるが、トキヤは神通力を全く使えない。トキヤとマサリンはコンテナで閉じ込められた。前はケースダーはトキヤから断られて恨んでいる。トライロンもマサリンから断られて恨んでいる。トキヤとマサリンは長い間コンテナで閉じ込められて空気が足りなくなつた。死ぬ前に、両方は恋愛をうちあけてた。トキヤは自分が神で、人間ではないことをマサリンに知らせて、マサリンはとてもびっくりした。その途端、カマダの神通力でコンテナのドアをあけられた。トッサポンとワイヤウイットとトライロンとケースダーは警察に捕まえた。

カマダはトキヤとマサリンが前生とこの世にソウルメートだと開示した。マサリンのソウルメートのリストをチェックした後、トキヤの名前が載っていると分かった。トキヤに言わない理由は何かミスが発生した。それから、カマダとテッサイはあのミスの原因を探したが、トキヤは実際にマサリンのソウルメートだと分かった。天の規則に違背するから、ト

キヤとマサリンは添うことができない。マサリンは自分の寿命より亡くなることだ。その後、ホテルの旅行者をチャオプラヤー川沿いの旅行に連れて行く時、マサリンは船が覆る事故で昏睡状態になった。この半死半生の時、トキヤはマサリンに秘密を知らせたから、大神に人間になるように呪われた。マサリンはいきなり奇蹟のように昏睡状態から回復して、トキヤが人間になったことが分かるととてもうれしい。しかし、トキヤはなんとなく過去のことを全く覚えられない。それから、トキヤは日本へ行って、マサリンから離していた。マサリンの三人の姉は皆自分の恋人と結婚することになった。

マサリンはトキヤが日本に戻ったとテッサイから聞いてから、急に探しに行った。一生懸命トキヤの記憶を回復するが無駄になった。彼女はとても悩んでいる。マサリンは自分の愛を成功できてずっとトキヤと添うできるように神に祈った。マサリンはホテルに帰る前に、トキヤがほぼ車にぶつけられるのが見えた。マサリンはトキヤを引っ張って、二人は倒れた。今回はマサリンはトキヤをキスした。

二年たって、マサリンとトキヤは小さな子供を散歩をしに行く。二人の娘は小さなキューピッドだ。なぜなら、けんかしている一組の恋人に娘がブリンクすると、恋人が仲直りをする。

カマダはマサリンにこう知らせた。トキヤがマサリンを覚えられない原因は人間になって後、天から記憶を消されたからだ。しかし、結局、因縁でトキヤとマサリンに愛に成功させた。トキヤとマサリンと発生したことは偶然ではなく、命運のことだ。恋愛は因縁のことでソウルメートならどうしても逃がせないだ。この世界に起こったことは天から決まる。運命も決まったことだ。